

ソ連におけるハクチョウ類の生態・渡り・ 保護に関する全ソ協議会

A. A. Kishchinsky & G. A. Krivonosov

All-Union meeting of the biology, migrations and conservation of the swans in the USSR

1980年4月15-17日にアストラハンで、ソ連におけるハクチョウ類の生態・渡り・保護に関する第1回全ソ協議会が、ソ連科学アカデミー動物進化形態・生態学研究所、自然保護局、鳥獣保護局、ソ連農業省林業狩猟局、アストラハン自然保護区により行われた。会議には33の研究機関、専門学校、自然保護や狩猟業機関から50人の専門家が集まった。

キシチンスキー（動物進化形態・生態学研究所）の報告「ソ連におけるハクチョウ類の研究成果と当面の課題」で全ソ及び国際間の計画の実行予定にハクチョウ研究の問題を含めることが検討され、最近のソ連のハクチョウ研究の方向と結果が分析され、研究の主要課題が示された。

クリヴォノソフ（アストラハン自然保護区）の報告は、営巣地と換羽地でのコブハクチョウの2回の全ソ生息数調査（1974、1978年）の結果を詳しくのべたものである。調査はカスピ海鳥学ステーションとアストラハン自然保護区により計画され、狩猟監督官、狩猟協会、連邦自然保護機関、研究機関、専門学校、その他の専門家によって行われた。調査に参加したのは1974年200人、1978年350人である。営巣地と換羽地の調査は1974年より1978年の方が多くなり、バルト海沿岸地方では全調査地で、ロシア共和国とウクライナでは90%で、カザフスタンでは75%で調査された。全数は1974年には38,500羽（繁殖4,600つがいと非繁殖29,300羽）、1978年に59,100羽（繁殖7,970つがいと非繁殖43,120羽）であった。生息数の急増は分布域内、とくにカスピ海沿岸、バルト海沿岸、カザフスタン北部において生息地が回復した結果である。

エルキン（カザフ共和国科学アカデミー地理学部）の報告「ソ連におけるハクチョウ保護の法律上の問題」では、共和国の狩猟法に定められているハクチョウの不法捕獲に対する対策が分析され、ソ連におけるハクチョウの法による保護を整えるには対策を統一する、多くの場合それを強化する必要があるという結論となった。

スココワとヴィノグラドフ（ソ連農業省全ソ「自然」研究所）はハクチョウの生息にとって国際および国家段階の湖沼・湿原の重要性について述べた。彼らによれば、ハクチョウ保護の主要戦略は法による保護と同時に生息場所の保護であり、また年間通して最適条件を維持することでなければならない。そのための最も重要な前提は保護する湖沼・湿原群について案をつくり、それを実現することである。

報告の多くは、各地のハクチョウの分布、生息数、生態の特徴について述べたもので、ソ連のヨーロッパ地方北部とアジア（クリヴェンコほか、ピアンキ、シュトワ、ベルフィリエフ、ミネエフ、ダニロフほか、ヴィノクロフほか）、バルト沿岸（リプスベルク、ネジンスカス、レンノ、アウメエス、ヴ

ァリュス、ガイガレネ)、南部の州 (カラバエフ、ヴァルシフスキー、コルジュコフ、アンドルセンコ、アルダマツカヤ、モロズキン、ヴァシリエフ、アウエゾフ、グラチエフほか)、西シベリアと東シベリア (ユルロフ、コシエレフ、ジュコフ、リピンほか、フェドロフ、ホドコフ、ラヴキンほか、ドロボフツェフ)、カムチャツカ (ロフコフ、ステンチェンコ) などの地域である。

首環と脚環をつけたコブハクチョウとコハクチョウの渡りの研究が報告された (キシチンスキー、コンドラチエフ、アルダマツカヤ、コスチン、カステピルト、パアクスプウ、リプスベルク、ネジンスカス、クリヴォノソフ)。両種の季節的分布の特徴が明らかにされ、異なる生息地にいるコブハクチョウの関係の程度が示され、繁殖期の土地利用の特徴が詳しく述べられた。

協議会では最近ソ連でハクチョウの研究に対する関心が高くなっていることが明らかとなった。ハクチョウの生態学の諸側面、生息数、分布、渡り、生息環境の研究を含め、生態について多くの研究が行われている。多くの地域 (バルト海沿岸、ボルガ・デルタ、北部黒海自然保護区) でハクチョウの詳しい生態研究が行われている。首環と脚環で標識することにより渡りの研究方法が発展した。コブハクチョウの研究やその個体群の現状把握では、アストラハン自然保護区のカスピ海鳥学ステーションの指導で全ソ規模の個体数調査が行われた。

協議会の参加者は、ソ連の各共和国のハクチョウの法による保護の現状分析に基づいて、その形式や不法捕獲と巣の破壊に対する対策を統一する実際上の対応を作成することが必要との結論に達した。ハクチョウの生息地ではどこでも繁殖期のマイナス要因 (水上旅行、釣など) を減らすのに、安全帯や一時的な禁漁区を設けたり、鳥の保護の宣伝を強化するなどの対策をとる必要がある。

協議会ではハクチョウや他の有用水鳥のよい生息条件を保護する具体的な対策が審議された。とくに協議会はオオハクチョウが集中する場所であるコラ半島のポノイ川上流域とストレリナ川・ヴァルズガ川間の白海沿岸から30km内陸、カレリア共和国の北はロウヒ・カステンガ間の鉄橋から南はチミ市・ユシコゼロ間までの地域である。協議会はメドィンスキー・ザヴォロト半島とハイプディルスク湾地域に禁猟区 (将来は自然保護区) を、ヴァシュトキン湖、ベジメイスク湖、ハルベイスク湖、ルスキ・ザヴォロト、コロヴィンスク湾、コココルコワ (アルハンゲリスク州、ネネツ民族管区) に禁猟区を、共和国として重要な禁猟区 (将来は自然保護区) をドゥヴォビヤ地方 (チュメニ州、ハンチマンシスク民族管区、ヤマロネネツ民族管区) に、プラ川・モコリット川、アガバ川間 (タイミル民族管区、クラスノヤルスク地方) に禁猟区を、共和国として重要な禁猟区 (将来は自然保護区) をポロニ川流域とシンミ川沿に、禁猟区をポリシヨイ・シャンタルスキー島、フェクリストワ島 (ハバロフスク地方) に設けることを提案した。

協議会はハクチョウの研究の将来の方向を示した。ハクチョウに首環と脚環をつける量を増加し、これと関連して必要な標識をつくることが承認された。

ソ連におけるハクチョウの生態研究の協力のため、協議会は次の研究グループを設けた: キシチンスキー (動物進化形態・生態学研究所・代表)、クリヴォノソフ (アストラハン自然保護区、副代表、コブハクチョウ担当)、アルダマツカヤ (黒海自然保護区)、ピアンキ (カンダラクシャ自然保護区)、クリヴェンコ (ロシア共和国中央狩猟研究所)。

次の協議会は1985年に開催予定である。

(キシチンスキー・クリヴォノフ)

(訳: 藤巻 裕蔵)

(Zoologicheskyy Zhurnal 60: 478-479(1981)より)